



3ゼロ運動の生徒指導

広島工業大学高等学校
前生徒指導部長 松島 篤夫

最近の4年間の広島工業大学高等学校生徒指導部の取り組みを報告します。

1年目(平成12年度)は、遅刻・頭髪不良の減少をめざして「遅刻ゼロ運動」・「茶髪ゼロ運動」に取り組んだ。2年目は、「シャツ出しゼロ運動」を加えて、「3ゼロ運動」として生徒指導に取り組んだ。3年目は、通学路の改善に取り組み、4年目は、各活動の生徒への徹底に取り組み、ある程度生徒へ浸透してきている。

次に、それぞれの取り組みについて報告します。

1.遅刻ゼロ運動

平成6年度からの「学校改革」により遅刻が毎年少しずつ減少してきた。しかし、6年間継続していると少しマンネリ化してきた。

私が最初に着手したのがこの「遅刻ゼロ運動」である。他校を訪問し情報収集し、指導方法の改善に取り組んだ。

- ①遅刻者は必ず生徒指導部に行って、遅刻状況届を書いてそれを持って教室に入る
- ②遅刻状況届の提出の確認
- ③各学期毎に、遅刻回数毎に、学年主任・生徒指導部指導、保護

者同伴での校長指導を行う

- ④毎日全教員へ遅刻者数を報告
- ⑤毎月毎に各生徒の遅刻状況をまとめて報告

上記のことを徹底して、担任が生徒へ遅刻指導しやすいよう生徒指導部がバックアップする体制を確立した。下表からわかるように、遅刻指数は広島工業大学高校になった平成6年を基準にすると平成11年度で2/3に、平成15年度で4/9に減少している。しかし、最近の3年間は遅刻指数は横ばいであり、新しい指導方法での指導の必要性を痛感している。

平成15年度の遅刻状況を分析してみると、1年間の皆勤者242名(24%)、3回以上遅刻者317名(31%)、10回以上遅刻者114名(11%)、100回以上遅刻者1名という状況である。

2.茶髪ゼロ運動

頭髪不良(特に茶髪)の指導に取り組んだ。現状調査すると、頭髪不良の生徒が1割以上もいた。そこで、いろいろ試行錯誤の後、各学期2回、年6回全校統一で、正・副担任によるLHRでの服装・頭髪指導を実施している。

- ①頭髪不良の生徒には「下校して

直してから登校」する指導

- ②1年間の調査用紙を作成し、継続指導

また、毎日登下校時校門に立って、頭髪不良の生徒を担当と生徒指導部で指導したり、朝礼終了時に服装・頭髪指導を実施し、クラス間のバラツキが少なくなる方法で指導した。未だ完全ではないが、少しずつ頭髪不良も減少している。さらに、最近長髪についても指導している。

「下校して直してから登校」する指導をする生徒数は、毎年少しずつ減少している。

3.シャツ出しゼロ運動

最近の流行で、シャツを出すことがだらしないという意識が生徒にないので、全国的に問題となっている。

シャツ出しの生徒の指導として、「立ち止まって、ズボンの中にシャツを入れる」・「クラス・名前を聞く」等の指導をしている。

また、全校統一指導として、朝礼後教室に入る時に、副担任・生徒指導部を中心にした服装指導をしている。

他校ではいろいろな試みが報告されているが、効果的な指導方法は未だないので、あきらめず継続して指

導していきたい。さらに、平成15年度から「下着は白」運動を展開している。

4.南門の設置

通学路の2号線は、登下校時に徒歩通学者と自転車通学者が入り乱れて大変混雑していた。そこで徒歩通学者と自転車通学者を分けるために、田中校長の許可を得て、徒歩通学者用に八幡川沿いに南門を設置した。広島でも有数の野鳥の宝庫八幡川を見ながらの登下校は、生徒の心を落ち着かせる効果が出た。また、下校時広島方面への自転車通学者は南門を使用することで、2号線の自転車の通行状態の緩和につながっている。

また、警察・町内会への要請を行い、2号線の歩道が自転車通行可となり、自転車通学も安全になっている。幸いなことに学校周辺での交通事故は発生していない。

登下校時も、毎日生徒指導部の教員主体で指導しているので、学校周辺での本校生徒のマナーは向上している。

5.生徒指導教室の開催

生徒の問題行動の抑止効果を高めるため、警察等へ依頼して1年生へは「犯罪防止教室」、2年生へは「薬物乱用防止教室」、3年生へは「カード・キャッチセールス被害防止教室」を開催している。平成13年度以降、警察が補導した問題行動は基本的に学校連絡があり、問題行動は大幅に増加している。

今後は教室の内容の充実を図り、問題行動の減少に結びつけたい。

6.まとめ

生徒指導の基本理念として「教職員の指導には素直に従う」ということを大前提に、生徒を指導している。また、上からの威圧的な指導ではなく、生徒と同じ目線に立って、対話を重視した指導を心掛けている。

以前は教職員の指導を無視したり、反抗したりする生徒がいたが、最近では殆んど生徒が指導に素直に従うようになってきている。

4年間の継続した生徒指導の結果、少しずつ生徒の心にしみてきていることを実感している。

生徒指導において、ある程度の成果を上げることができたのは、森本教諭をはじめとする生徒指導部の教員および全教職員の協力の賜物である。紙面を借りてお礼を申し上げます。

しかし、「消極的な生徒指導」から「積極的な生徒指導」への移行をめざしたが、殆んど進んでいない。遅刻、服装・頭髪、問題行動、不登校等の諸問題について、今後の生徒指導部のリーダーシップに期待したい。



表1.遅刻者数の推移

年 度	H6	H11	H12	H15
①総遅刻回数	9,599	4,414	3,684	3,397
②遅刻数/日	43.6	20.8	17.2	15.7
③生徒数	1,266	887	1,041	1,022
④遅刻指数 ②÷③	0.034	0.024	0.017	0.015
比 率	100%	68%	48%	45%

表2.頭髪不良での下校指導者数

年 度	H13	H14	H15
①下校指導者	153	96	56
②生徒数	1,129	1,139	1,022
①÷②	14%	8%	5%